

「情報処理学会論文誌：数理モデル化と応用」の編集にあたって

阿久津 達也[†]

第9号では2003年3月、5月の各研究会に基づいた論文を中心に、2002年11月の研究会連動論文で第8号発刊以降に採録された論文1編と研究会非連動論文2編を加えて、計10編の採録論文を掲載しております。採録論文数/投稿論文数は、3月および5月の各研究会ごとに、それぞれ、5編/6編、4編/5編となっており、この2つを合わせますと採択率は82%となります。また、研究会非連動論文の採択状況に関しては、3編/4編となっています。ただし、5月開催研究会連動論文の採択論文4編のうち1編、および、研究会非連動採択論文3編のうち1編は、第10号（進化的計算特集号）に掲載予定となっています。また、第8号発刊時点では2002年11月研究会連動論文のうち2件が改訂中となっていました、1件のみが採択となりました。第9号までに採否が決定しました論文の採択状況は126編/230編ですので、総採択率は55%となります。よって、今回はこれまでよりかなり高めの採択率となります。しかしながら、論文評価は以前と同様の基準で行っていますので、採択率が高くなりましたのは、完成度の高い論文が多く投稿されたためと考えられます。なお、今号の採録論文10編の担当編集委員は掲載順で、徳山 豪、古瀬慶博、鈴木泰博、横内寛文、高橋治久、武藤佳恭、阿久津達也、阿久津達也、古瀬慶博、城 和貴となっています。

第9号に掲載された論文は、統計的学習、スケールフリーネットワーク、エージェント、ニューラルネットワーク、グラフ、各種シミュレーションモデル、ハミルトニアンなど多岐にわたる数理モデルが用いられており、応用分野の面から見ても、WEBマイニング、情報セキュリティ、社会経済モデル、画像処理、画像理解、交通解析、VLSI設計、スポーツ、音楽情報処理と広範囲にわたる分野が対象となっており、「数理モデル化と応用」という論文誌名にふさわしいものとなっております。ここにあげましたキーワードから分

かりますように、どの論文も最新の話題を取り扱い、現実の問題のモデル化、およびその解法を取り扱ったもので、各分野に大きな貢献をするものと考えています。本論文誌の大きな特徴の1つとして、「数理モデル」が関係すれば応用分野を限定せずに論文を受け付ける、ということがあります。そのため、他の論文誌では「分野違い」といって門前払いとなるような論文であっても、適切な査読者を見つけて迅速に評価するように心がけています。また、論文の査読や審査にあたっては、新規性と有用性の両者を求めるのではなく、どちらか一方に十分な価値があれば、それを高く評価するという方針を取っております。さらに、いったんは不採録として判定しても、価値があると認められる論文については再投稿、再々投稿を促すということもあげられます。

平成11年2月に第1号が発刊してからすでに4年半以上が経過しTOMも論文誌(Transaction)として定着しました。現在、情報処理学会では英文誌化やオンラインジャーナル化も含め、基幹論文誌および研究会論文誌(Transaction)の改革について様々な議論、検討がなされていますが、TOMでは改革について前向きに対処していく予定です。

今回が平成15年度における第1号となりますが、進化的計算特集号を含め今年度は合計3号の発刊を予定しています。配布部数につきましては、これまでどおり1,000部を予定しております。なお、論文誌の定期購読制度もありますので、ぜひ、こちらをご利用ください。また、研究会開催記録、研究会登録案内、投稿案内などに関する最新の情報はすべてWWWページ上に掲載しております。すべての情報は研究会ホームページ(<http://www.ipsj.or.jp/sig/mps/>)よりたどることができますので、SIGMPS研究会および本論文誌に関しては、そちらをご参照くださいますようお願い申し上げます。

[†] 情報処理学会論文誌「数理モデル化と応用」編集委員長
京都大学